

2-3 ホーンアレンジ4つの型

ホーンアレンジ4つの型

- フォーム1: 主旋律型
- フォーム2: バッキング型
- フォーム3: 間の手型
- フォーム4: キメ型

フォーム1: 主旋律型

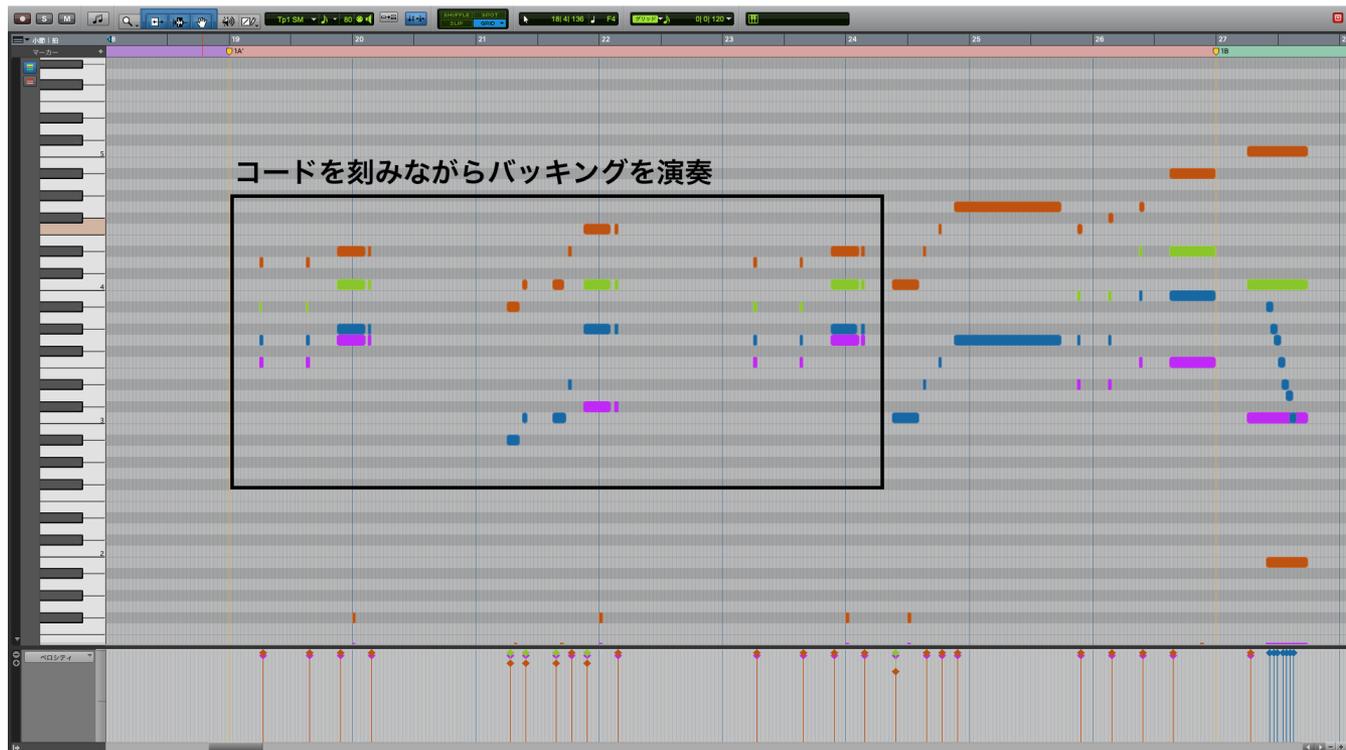
その名のとおりホーン全体でメロディを演奏する型。基本はホーン全体でオクターブユニゾンしながらメロディを演奏する形だが、ところどころハーモニーを組み込むとよりカッコいい。



ホーン全体でメロディを演奏

フォーム2: バッキング型

ホーン全体でコードを刻みながらリズムカルなバックギンを演奏する型。下図の中央部分のようにオカズを入れることで、よりホーンらしい粋なアレンジに。



コードを刻みながらバックギンを演奏

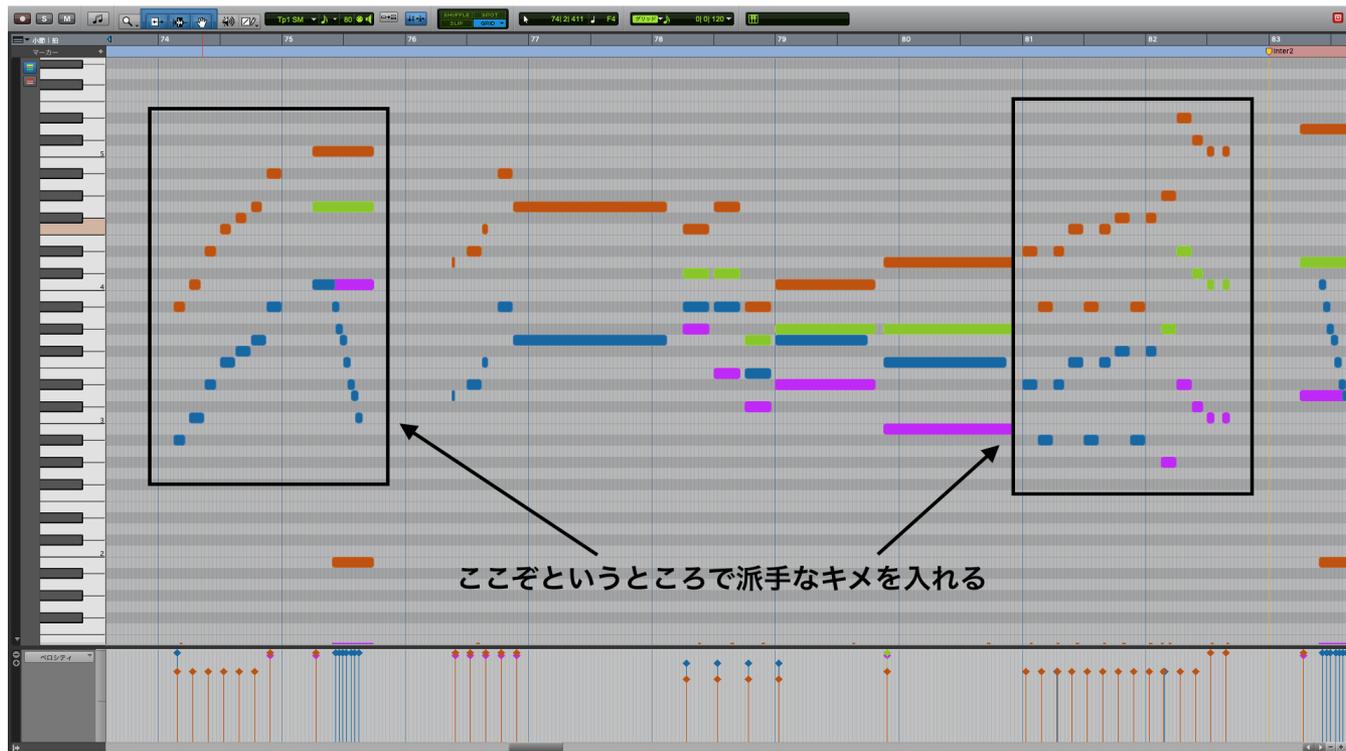
フォーム3: 間の手型

主旋律となるほかのパートに間の手を入れていく型。ホーンセクションはパワフルで存在感が強いいため、ベタ付きでいるよりも、アクセント的に使用した方がメリハリがついてよい。

メロディの合間を縫って間の手をとる

フォーム4:キメ型

その名のとおり派手なキメを演奏する型。イントロ頭やサビ前、サビの一番最後など、派手に盛り上げたい場所でここぞとばかりにキメると、全体がバシッと引き締まる。



ここぞというところで派手なキメを入れる